



提供 平凡社

文化放送 昭和三十一年五月一日午後十一時放送

放送 新日本放送

五月五日

製作 博報堂ラジオ部

「世界の民謡」 第九回 (スペイン盤)

出演者 勝田ホセ  
解説 小泉文夫

○ M T M

解説

今週はスペインの民謡、特にその中でも最も有名な、南部のアンダルシーアのカンテ・フラメンコをお送り致します。最初は、スベニツシュ・タンゴの「タイエント」

M (1)

「タイエント」

解説

勝田ホセさんに歌っていたとします。カンテ・フラメンコの第二曲は、スベイン民謡のうちで、代表的なリズムを持つており、踊りの唄「フアングゴ」。このフアングゴという名は、古くセルバンテスの有名な「ドン・キホーテ」の中にも出て参りますが、この地方のお祭り、地方館館、恋愛などと結びついた独特のローカル・カラーを持つておりました。民俗舞踊の伴奏としてもまた軍隊の民謡としてもうたわれます。では「フアングゴ」。

M (2)

「フアングゴ」

解説

このようなスペインの民謡は、先週も申し上げました通り、フィリピンやラテン・アメリカ諸国の音楽に多くの影響を与えました。特にラテン・アメリカでは、もともと土着のアメリカ・インディアン音楽や、アフリカのニグロ音楽と混血して、ますます強烈で多様なラテン・アメリカ音楽として大きく発展し、アメリカのジャズと並んで、現代民衆音楽の王座を占めることになるのですが、一方芸術音楽の分野でも、フアリヤ・トゥリーナ・グラナドス・アルベニスなどという近代から現代にかけてのスペインの一流の作曲家が、こういった民俗音楽をとり上げているのは勿論のこと、その少し前から、グリーンカ・リムスキー・コルサコフ・ラロ・ラヴェル、などの外国の作曲家によつてすぐれた音楽として世界に知られるようになりました。それまでのヨーロッパ音楽に見られない、情熱的でしかもせん細な味や、瞬間的な官能のよろこびといったこのスペイン民謡独特の大きな魅力から見れば、それも当然のこととしてしよ。

では次に「フアルサ・モネア（にせ金）」という二拍子のアタビ

V  
4.40  
←

2.29

V  
1.18 11"

4.40

2.29

1.18 11"

TOT 1307

← 0 307 → 0

714454

勝田 小泉 勝田 小泉 勝田 小泉

勝田 ::::  
 小泉 勝田さんはあちからジブシーから歌やギターを習つたり、いろいろ接触があつたと思ひますが::::  
 勝田 ::::  
 小泉 次に歌つていたとく「カンタイニーヤ」ですね。これはどういう時に歌われるのですか？  
 勝田 ::::  
 小泉 あ、そうですね、ではその「カンタイニーヤ」をおねがいします。  
 解説 M (4) 「カンタイニーヤ」  
 では最後に、「カルセレーラス」という古い唄を、「ブレイリアス」という現代の速いリズムで歌つていたと見ましよう。この唄は、昔、牢獄の囚人がうたい始めたもので、南スペインの「サンタ・マリアの港」という所に大きな牢屋があり、囚人達が小窓から神を行く帆かけ舟をながめて、故郷を想いつつ、はかない囚われの身をうたつています。

1702  
976  
306

1409 1103 1058

TOT 10,00

520 503 1,23

714454

勝田 小泉 勝田 小泉 金野 (1)

金野 (1) (ジブシー音楽) (2) (カンタイニーヤの説明)  
 小泉 カンテ・フラメンコというのは大体スペインにかりますジブシーの音楽だと思ひますが::::  
 勝田 ::::  
 小泉 これが、他の地方のジブシー起源でないスペイン民間にもいろいろ影響を与えているわけですか？  
 解説 M (4) 「フアルサ・モネア」  
 ではスペイン民間、カンテ・フラメンコのこういう官能的な魅力はどこから来たものでしよるか？ それについて、長くスペインに行つておられて、日本ではたゞ一人のカンテ・フラメンコの歌い手である勝田ホセさんに何つて見ましよう。  
 ア風の歌をうたつていたと見まします。スペインでは、にせ金は日本のように警察にとまかせませんで、そういう物騒なものはない早く使つて了います。で、この歌はそのにせ金のように、男の手から手へ移つてあるく、薄情で悍気な女をうらんだ歌です。

976 10

945 605

1307  
 335  
 1637  
 102  
 5.30  
 1739

← 252 ← 27  
 13.34  
 解題  
 Ⅹ (6)

では「カルセレーラス・ボル・ブレリーアス」

「カルセレーラス・ボル・ブレリーアス」

今日は勝田ホセさんにギターのみを贈りて、スペイン南部のカン  
 タ・フラメンコというジブシーの民謡を歌っていたと聞きました  
 コーロッパに侵入したジブシーは、スペインばかりでなく、古く  
 から北のロシアや、東のハンガリーやルーマニアにも移住し、そ  
 れぞれ豊富なジブシー音楽で、その土地々々の人々をなぐさめま  
 した。中でもハンガリーのジブシー音楽は、ブラームスやリスト  
 によつて「ハンガリアン・ダンス」とか、「ハンガリアン・ラプ  
 ソディイ」として洗練された芸術音楽に高められて有名になりま  
 したが、来連はヘール・イレインさんにそのハンガリーの民謡を  
 いろいろ歌っていたと聞くことにしました。

1307  
 1310

5567  
 1740  
 215  
 42  
 133

17.30

17.38  
 17.36  
 17.01